



あおもり 町連だより

第199号

平成26年10月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

交通事故撲滅・犯罪防止訴える

18地区連合町会が決起大会・パレード

安全・安心な明るく住みよい町を目指して、18の地区連合町会が7月12日から10月13日までに交通安全・防犯決起大会を開き、交通事故撲滅、犯罪防止を訴えました。

西部第五区連合町会（加川幸男会長）と西部第七区連合町会（倉内一長会長）は合同で9月1日（月）、交通安全・防犯決起大会を開き、メインストリートをパレードして交通事故と犯罪の撲滅を誓いました。

大会には地区住民、新城小学校と新城中央小学校の5・6年生、非行防止活動を行っている新城中学校JUMPチームら620人が参加しました。

パレードは午後1時30分、県道247号線を新青森駅入り口近くから新城小児童のプラスバンドを先頭にスタート＝写真①。第七区の住民が交通安全、犯罪防止のたすきをかけ、のぼり旗やプラカードを手に、児童は「みんなでつくろう 交通安全・防犯



の街」と書かれた横断幕を掲げて行進、途中で第五区の住民と新城中央小の児童＝写真②＝に引き継ぎして、新城中央小まで約1.5キロ歩きました。参加者は沿道の住民らに、交通安全や非行防止のスローガンが書かれたティッシュや風船を配り、新城中央小の児童は、紙に思い思いの標語を書き児童が手作りしたたすきをかけ、交通安全、防犯を訴えました。

この後、新城中央小で児童代表が①道路では危険な行為をしません②自転車の乗り方のマナーを守ります③急な飛び出しはしないなど道路を歩く時に気をつけます④非行はしませんーと交通安全・防犯宣言をしました。

東部第一区連合町会（笠井博会長）は7月27日（日）午前9時30分から交通安全慰霊祭と交通安全パレードを実施、町会員、浅虫防犯交通安全協会、東陽小学校児童などが参加しました。

強風のため、慰霊祭を一番タクシー車庫内で開き、宿屋「つばき」駐車場へ移動、東陽小児童が
(2面、3面へ続く)

紙面紹介

- 2面 マナーアップ交通安全大会
地区連合町会交通安全・防犯決起大会
- 3面 新任町会長研修会
- 4面 除排雪事業報告会
- 5面 町会女性役員研修会
- 6面 幸畑団地まちづくり協議会を設立

無謀運転の徹底追放 交通事故防止を誓う

マナーアップ交通安全大会

青森地区運転管理事業主会、青森地区安全運転管理者協会主催のマナーアップ交通安全大会が6月25日（水）、県民福祉プラザで開かれ、町会関係者、事業所の安全運転管理者・ドライバーなど約150人が参加し、安全運転、交通事故防止を誓いました。

交通事故犠牲者に黙祷をささげた後、青森地区交通安全協会の田谷正雄副会長があいさつ、今年度のスローガン①事業所が担う安全・安心そして信頼②繋げよう無事故・無違反思いやり運転③発信はチャイルドシートの笑顔見てーを紹介し、事業所から絶対に事故を出さないようにしようと訴えました。

「交通安全宣言」をした後、参加者が「飲酒運転禁止」と書いたプラカードを掲げながら、浅虫町内を約1キロパレード、交通安全を呼びかけました。

東部第六区連合町会（日下昭夫会長）は7月18日（金）午後1時から佃小学校で交通安全・各種犯罪防止決起大会＝写真①＝を開き、住民、佃小児童、PTAなど342人が参加しました。



佃小の児童代表が「誓いの言葉」を述べた後、参加者は交通安全標語を書いたプラカードなどを掲げながら、佃小吹奏楽部の演奏に合わせ、同校から佃中、生協つくだ店、元気プラザ、同校のコースをパレードしました。

東部第五区連合町会（木村真一会長）は7月19日（土）午前10時30分から虹ヶ丘公園で浜館地

次いで、青森市、青森警察署、青森交通安全協会から激励の言葉があり、司会者の柳澤ふじこさんが①自分を愛し事故を起こさない②仕事を愛し無謀運転しないーなど「愛の五つの誓い」を読みあげ、ドライバーを代表して兼平智佳さんが①車



ドライバーを代表して安全宣言する兼平さん

に乗るときは、シートベルトの着用と、早めの点灯を励行し、安全運転に努めます②しっかり止まって、はっきり確認し、一時停止を守り、歩行者、特に子どもとお年寄りの交通事故防止に努めます③お互い譲り合いの気持ちをもって、安全運転に努め、暴走運転・飲酒運転などの無謀運転の徹底追放に努めますーと安全宣言しました。

区防犯・交通安全パレードを開き、住民、浜館小学校児童、PTAなど370人が参加しました。



交通安全防犯協会支部長あいさつなどの後、「浜館ねぶた同好会」の子どもねぶたも加わり、生協ひまわり館までパレード＝写真②＝、交通安全、防犯を訴えました。

南部第三区連合町会（今井敏昭会長）は7月19日（土）午前10時から甲田小学校で旭町地区交通安全・防犯決起大会を開き、11町会の住民、甲田小学校児童、甲田中学校生徒など350人が参加しました。

交通事故で亡くなられた方々へ黙祷をささげ、甲田小児童代表、運転者代表、高齢者代表がそれぞれ「誓いのことば」を述べた後、甲田小鼓笛隊を先頭にパレード。のぼり旗やプラカードを掲げ

「世帯の把握に苦慮」

新任町会長研修会

市町連は7月9日（水）、市健康福祉増進センター（しあわせプラザ）で、昨年7月以降就任した町会長を対象に研修会を開き、出席した27人が市町連の組織、町会の事務の取扱い、市の補助制度について学びました。



市町連の組織など説明する
須藤事務局長

市町連の加川幸男会長のあいさつに続き、須藤雄樹事務局長が、町会の役割・活動、地区連合町会と地域協議会の組織・役割、町会の備付簿冊、市町連の町会に対する助成制度について説明しました。

質疑応答では、出席者から①市町連からの助成金交付は4月からか②各簿冊の保存年限はどのくらいが適当か③町会の世帯状況の把握が困難になっている。他町会の状況、調査方法などを紹介

してほしい④助成金申請の様式は。また報告は必要か⑤各町会が、どの地区連合町会、地域協議会に属するのか教えてほしい⑥共同募金の扱いに関して、市町連として検討したことがあるかーと質問・要望があり、事務局長や部会長が①4月からである②少なくとも3年は必要③一例として、西田沢町会は2ー3年ごとに世帯調査を実施、各世帯に協力を求めているが、調査を拒否する世帯もあって苦慮しているのが実情。各町会の工夫などを今後紹介していきたいーと回答しました。

続いて、市の市民協働推進課の藤林靖幸主査、三上直也主事が、町会の活動に対し市と自治総合センターが実施している助成金・補助金制度について、対象となる経費、助成額、各町会が行う申請書提出から交付までの事務の流れなど具体例を挙げて説明しました。

出席者からは①町会のコピー機の保守費用は助成対象になるか②地域市民館運営助成金について、光熱水費は4月1日から翌年3月31日までの経費が対象になっているが、町会の会館の光熱費は3月に検針して、4月に支払っている。4月に支払った分は4月分の経費にしてもらえないかーと質問・要望があり、藤林主査、三上主幹が①コピー機の保守費用も助成対象になる②利用月の翌月請求になっている場合は対象になるーと回答しました。

た住民、「仮装」した住民が、交通事故撲滅と少年非行、犯罪防止を訴えました。

南部第六区連合町会（加藤恒雄会長）と南部第八区連合町会（八戸弘会長）は7月20日（日）午後1時30分から奥野中央公園で防犯・交通事故・少年非行防止合同パレード総決起大会を開き、320人が参加しました。



③

大会宣言＝写真③＝の後、参加者はのぼり旗やプラカードを掲げながら、同公園から青葉通り、

観光通りをパレード、交通事故防止、防犯を訴えました。

西部第三区連合町会（野呂龍一会長）は8月31日（日）午後10時から古川中学校で交通安全大会、パレードを開き、10町会員、古川中学校生徒ら180人が参加しました。



④

パレード＝写真④＝は、古川中学校生徒のブラスバンドを先頭に、同校から浪館通りを約1キロ往復、交通事故防止を呼びかけました。

除排雪 報告会

雪寄せ場に公園、学校を開放

図面を作り直し、歩道の除雪綿密に

市の除排雪報告会が7月16日（水）市役所柳川庁舎で開かれ、市町連から加川幸男会長はじめ、副会長、常任理事、地域振興部会員ら28人が出席、25年度の除排雪実施状況の報告を受けた後、問題点など意見交換しました。



25年度の除排雪状況を報告する永澤副参事

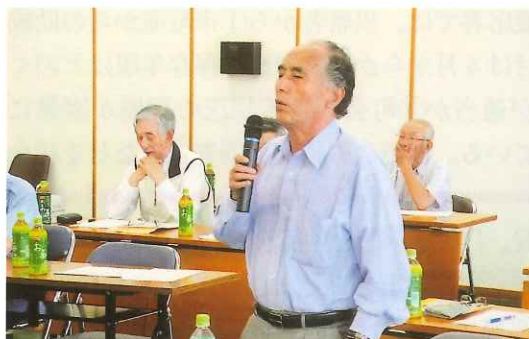
夜間の大雪の対応が課題

実施状況について、市道路維持課の永澤治副参事が「25年度の降雪状況は2月中旬まで平年値を下回っていたが、その後一時的に33センチの降雪があり、除排雪の着手が遅れたり除排雪に日数を要した地域があった。市民相談窓口への雪に関する相談件数は4,261件（前年12,131件）で前年に比べ3分の1に減った。除排雪にかかった費用も30億7,200万円（前年41億2,300万円）で前年より10億5,100万円減った。25年度に行った主な見直しに関しては①本部体制では、副市長を除排雪対策本部長に、全庁的な本部体制を構築、幹線雪捨て場パトロール班を新設して、幹線、雪捨て場の作業状況を確認した②市民雪寄せ場の確保では、公園133カ所、児童遊園37カ所、学校64校をシーズン当初から開放した③安全管理強化では、作業前のアルコール検査を義務付け、除雪点検日報により、検査結果を確認した④雪出し対策では、商工会議所が発行する「かけはし」で雪出し禁止を訴えた⑤高齢者世帯等の対策では屋根の雪下ろし費用の一部助成を37件実施した」と報告、今後の課題として①夜間の大雪に対する対応②市民・事業者の雪出し③歩行者空間の確保④持続的な除雪体制の確保－を挙げ、業者への聞き取り、PR方法の検討、ロータリー車が入らない狭い歩

道は人力で対応するようにしたい－と話しました。

克雪のビジョンを示して

続く意見交換では、市町連側から①地域コミュニティ除排雪制度を利用すべく、協定書を市に提出したが、市から返事や説明がなかった②三内地区で狭い道路に雪が積まれ、子どもの通学に危険な箇所がある。解消してほしい。通学路の安全確保に除雪ボランティアをつくっているが、それへの支援を考えてほしい③中央大橋の歩道管理は市か県か。町会が歩道の除雪をしているが、除雪機の燃料代補助を考えてほしい④雪寄せ場に関する情報提供に協力したが、調査結果について連絡がなかった⑤ロータリー車による歩道の除雪回数を増やしてほしい⑥雪寄せ場に関して情報提供したが、昨年度雪寄せ場として使えなかったところは



通学路の安全確保などを訴える町会長

今後も使える見込みがないのか⑦今後の課題を4項目挙げているが、具体的な取り組みを示してほしい⑧高齢者、障害者等弱者の対応に各部が連携して当たってほしい⑨地中熱を利用するなどして克雪のビジョンを示してほしい⑩流雪溝への分水を町会が調整するのは微妙なところがある。要望が出されている場所を市が調査してくれば、町会として調整に入りやすい－と多くの要望、意見を出しました。

これらに対して、市からは①18地区でコミュニティ除排雪の協定を結んだが、協定書がすべて揃うのを待って決裁したため連絡が遅れてしまった。今後はこのようなことがないように対応する②パトロールで確認し、排雪回数を多くすること

健康寿命延ばすため 私たちにできること

町会女性部役員研修会

市町連女性部会は9月25日(木)、アピオあおもりで町会女性部役員研修会を開き、出席した67人が、市健康づくり推進課の小形麻理副参事と同和田愛弓管理栄養士を講師に「健康寿命の延伸に向けて私たちができること」について学びました。

健康アップにあと10分の運動



小形副参事は＝写真①＝は、平成22年度市区町村別平均寿命によると、青森市の男性の平均寿命は76.5歳で全国1,898市

町村中ワースト4位だったと話し、その理由として、がん、心疾患、脳血管疾患の三大生活習慣病による死亡が全国より高いことを挙げ、短命市を返上するため取り組んでいる「市民総ぐるみの健康づくり運動」について解説しました。そして、同運動の普及啓発のために作った「あおもりスローガン」(あーあるこうよ 毎日つづけて あと10分 おーおもいっきり おいしい空気 禁煙で もーもう一品 野菜をプラス 塩分マイナス リーリフレッシュ 心も身体も すっきりと

しーしっかりと 毎年受けよう 健康診断)や、あおもり健康アップ推進月間(9月1日～10月31日)の対象事業を紹介し、「元気に過ごすためには、身体を適度に動かすことが大切。毎日あと10分の運動習慣で健康寿命を延ばしましょう」と

で解消したい。ボランティアの支援は難しい③中央大橋は県の管理。除雪機の燃料代は検討したい④714カ所の情報提供があったが、所有者に確認、実際使用できたのは41カ所だった。今後、情報提供があった町会へ連絡する⑤図面を作り直し、歩道除雪をもっとしっかりやる⑥情報提供があった714カ所の半数は所有者が確認できなかったり、連絡がつかなかった。再度調査して、昨年

訴えました。また、市が、予防接種法の改正に基づいて10月1日から行っている高齢者肺炎球菌予防接種について案内しました(対象者、接種費用等の問い合わせ先は青森市保健所健康づくり推進課。電話743-6111)。

気張らず減塩ライフ楽しもう

和田管理栄養士＝写真②＝はまず、塩分の摂取量について、本県でも減少傾向にあるが、男女ともに全国平均を上回って



いると話し、摂取量の目安として、高血圧の人は1日6g未満、高血圧予防に男性1日8.9g未満、女性1日7.0g未満と紹介しました。次いで、塩分を控えるためのヒントとして①生きていくために1日に必要な塩分は②天然のだし汁に塩分は含まれるか③漬物は漬ける時間が長いと塩分が高くなるか④酸味は減塩の工夫としてよいかーなどクイズ形式にし出席者へ問いかけながら8つのポイ



減塩のヒントをクイズ形式で学ぶ出席者

ントについて解説しました。そして、「どんなよいことも続けなければ意味がない。『気張らない』ことが長続きのコツ。自分にできることから始めて、減塩ライフを楽しみましょう」と呼び掛けました。

度使えなかったところも使えるようにしたい⑦今後、課題項目を挙げるだけでなく、対応についても説明するようにしたい⑧他部と常にタイアップして進めていく⑨融流雪溝、ロードヒーティング整備を進めているが費用、時間がかかる⑩地元で話し合いをして、どのような問題があるのか整理し、市に相談してもらえれば、調整するーと現状、対応を説明しました。

安心して住めるまちへ

幸畑団地 まちづくり協議会設立

幸畑団地連合町会（9町会）内の住民、企業、団体、青森大学が連携して7月、幸畑団地地区まちづくり協議会（須藤喜代行会長）を設立、8月9日（土）に青森大学で臨時総会を開いて、事業計画などを承認しました。



事業計画などを承認した幸畑団地まちづくり協会の臨時総会

昭和43年に造成された幸畑団地は、市内ではいち早く上下水道が完備、住環境に恵まれています。昨年12月に青森大学教員有志らでつくる「幸畑プロジェクト」が同団地の一戸建てを対象に空き家調査を行ったところ、1割近くが空き家で、市全体に比べ、若い世代の人口減少と高齢化が進んでいることが判りました。住民にもこのままでは「限界集落」になる、今の内に何とかしようという思いが出始め、また連合町会に市からまちづくり協議会立ち上げの打診もあり、町内の住民、交通安全協会、郵便局、福祉協議会、青森銀行、青森大学が会員になり、地区のイメージアップを図り、今住んでいる住民にも、新しく転居してくる人にも、安心して定住できるまちづくりを進めようと、幸畑団地地区まちづくり協議会を設立しました。

同協議会は、「明日を見つける 学びときずな 空高いまち 幸畑ヒルズ」をスローガンに、事業計画を①地域交流促進②青森大学連携③地域の魅力情報発信④地域の歴史・文化継承⑤高齢者支援⑥子育て・子ども支援⑦地域ごみ対策⑧地域防災対策⑨克雪・利雪プロジェクト⑩空き家活用プロジェクトの10項目に分け、市のまちづくり構想推進事業補助金50万円余りを活用、ワーキンググループ、プロジェクトチームをつかって5年間での実施を目指します。今年度は、青森大学の全面的な協力で①誰でも参加できる地域交流イ

ベント開催②幸畑団地文化祭開催③健康教室・介護予防教室開催④認知症対策事業⑤防災避難場所の周知を図る⑥救命救急訓練-を実施します。

総会では、出席者から今後の事業について①誰もが参加できる運動会開催②冬期、雪でつくった「鏡餅」を家の前に飾るイベント開催③町内の坂を活用したユニークなランニング・ジョギング・ウォーキングコース整備④町内の助け合いなどをやりとりする地域通貨の導入-などの提案がありました。

地域交流に子どもねぶた運行

幸畑団地連合町会と同地区まちづくり協議会は今年の地域交流促進事業のひとつとして8月30日（土）、同団地で子どもねぶた運行と交通安全・防犯パレード、納涼祭を開きました。



児童、学生らに引かれ団地内を練り歩く子どもねぶた

子どもねぶた運行、交通安全・防犯パレードは青森大学「幸畑プロジェクト」の指導で幸畑、横内の両小学校児童が制作した「くまモン」などの子どもねぶた2台を、児童や青森大学の学生らが引き、団地内を練り歩きました。幸畑中央公園で開いた納涼祭は、模擬店が出店、多くの景品を用意した抽選会なども行われにぎわいました。

哀 悼 録

新赤坂町会 菅原 研四郎 殿
(平成26年7月20日ご逝去)
慎んで哀悼の意を表します。

● 編集後記 ●

地方の人口減少が進み、「限界集落」「地方消滅」といった言葉も耳にするようになりました。人口減少を食い止めるカギは若者が握っています。幸畑団地が青森大学などと連携して進めるまちづくりを紹介しましたが、今後注目しています。(千)